

Spooky Season

October is coming around and one of my favorite holidays is nearly upon us. Halloween is a holiday that I am always looking forward to, it was always more about the trick-or-treating. Kids and young adults, maybe up to age sixteen or seventeen, would dress up and wander around the neighborhood to get candy. In Alaska, it was always dark and usually was cold enough that there was snow on the ground.

Every neighbor who was handing out candy had a display, some more elaborate than others. The goal of course was to spook the kids and give them a little scare. At the end of the walkway, we would push the doorbell, and yell "Trick or Treat" as the door was opened. The neighbor would smile and ask "Who/What are you dressed as?" And they would have a big bowl of candy to grab a handful or two from.

Costumes had to be planned to go over winter coats and potentially be used with gloves, cleats, electric blankets or anything that could keep the wearer warm while they wandered. Cars were involved only in ferrying groups to new neighborhoods or between houses if the area was large enough.

After trick-or-treating, the group would sit down and sort through the candy, rating each based on how much we liked it. We would sort and trade among each other for treats. It was fun to sort through mountains of candy looking for the kinds we liked. We would ration them out for as long as kids could. A week tops. My little sister loved sour candy, always going for "Warheads" and "Sour Patch Kids", lemon flavor being the favorite. Mine was always the sweet, gummy candy, "Mike and Ikes" or "Skittles", similar to "Poiful".

As an adult in college, my costumes were always horrible, I never learned to sew, so the premade costumes here are nice. But Halloween is always a night to go out and have a little bit of fun in a different costume.



ALT
Leonard
レナド

英語で
あれこれ
6

不気味な季節

いよいよ10月が近づき、私が大好きな祝日の1つが間もなくやってきます。ハロウィンはいつも楽しみにしている祝日ですが、私にとっては「トリック・オア・トリート」はとりわけ大事なものでした。子供たちや16、17歳くらいの若者たちが仮装をして、お菓子をもらうために近所を歩き回っていました。アラスカでは、その頃にはもう暗くなっており、たいいてい地面に雪が積もるほど寒かったものです。

お菓子を配ってくれる近所の人たちは皆、飾り付けをしていて、その出来栄は家によって様々でした。もちろん目的は、子供たちを驚かせて少し怖がらせることでした。通路の突き当たりでドアベルを押し、ドアが開くと「トリック・オア・トリート」と叫びました。近所の方は笑顔で「誰(何)の仮装をしているの?」と尋ねてくれ、大きなボウルに入ったお菓子から、一掴みか二掴み取らせてくれました。

仮装は、冬用のコートの上に着られるように考える必要があります。手袋や滑り止めのついた靴、電気毛布が移動中も体を温めておけるものを着用することも考えなければなりません。車を使って移動するのは、範囲が広くて、集団を隣の地区や距離の離れた家と家の間を移動する場合だけでした。

ハロウィンの「トリック・オア・トリート」を終えると、みんなで座ってお菓子を仕分けし、気に入った順に順位付けをしていました。お互いに交換し合ったりもしました。山のように積まれたお菓子の中から、好きな種類を探すのは楽しかったものです。できるだけ長く楽しめるよう、お菓子を少しずつ分けて配っていました。最長1週間くらいでした。妹は酸っぱいお菓子が大好きで、いつも「ウォーヘッズ」や「サワーパッチキッズ」を選び、中でもレモン味が一番のお気に入りでした。私はいつも甘いグミ系のお菓子、「マイクアンドアイク」や「スキットルズ」が好きで、これらは日本のグミ「ポイフル」に似ています。

大学生の時、私の仮装はいつもひどいものでした。私は裁縫を習ったことがなかったため、日本で売られている既製の衣装はありがたいです。でも、ハロウィンはいつだって、普段とは違う仮装をして外に出て、ちょっとだけ楽しむ夜なのです。



としょしつだより

児童図書室
一時閉鎖のお知らせ

福島県知事選挙の実施に伴い、10月8日(木)から10月26日(月)まで、児童図書室を閉鎖いたします。期間中、児童図書室はご利用いただけませんので、ご了承ください。

でも、絵本がお休みするわけではありません！閉鎖期間中は、一般図書室のDVDコーナーを改造し、いつもとはちょっと違う「ヌック型の絵本コーナー」が登場します。いつもよりのんびり、じっくり絵本を楽しめるよう、楽しい工夫を凝らして皆さんをお待ちしています。いつもの図書室とはひと味違う空間で、お気に入りの一冊を見つけてみませんか？ぜひ遊びに来てください。

◆10月新着図書 一般書 23冊 児童書 20冊

10月14日(水)の新着図書の展開は43冊です。

※到着状況により遅れがでる場合があります。

予めご了承ください。

図書室休室日のお知らせ

10月							11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31	29	30					

は休室日 ※11/3(火)文化の日は、休日なので開館します。

開室時間：午前8時30分～午後5時15分



◆一般図書

子育てのもぐり。図鑑

著：つむば

「なんでこんなに大変なの?」と思う子育ての日々を、ユーモアたっぷりに描いた一冊。イヤイヤ期や寝かしつけ、きょうだいげんか、食事など、子育て中なら誰もが一度は経験する「もぐり」な場面が次々と登場します。思わず笑ってしまうエピソードの中には、「うちも同じ!」と共感できるものもたくさん。子育ての大変さを笑いに変えて、肩の力をふっと抜いてくれる一冊です。

◆児童図書

ほしじいたけ ほしばあたち

著：石川基子

ほしじいたけと、ほしばあたちが暮らす、きのこの森で起こる楽しい物語。ある日、ほしじいたけは森で大変なことに巻き込まれてしまい、知恵と勇気をかりしほしで、仲間たちと力を合わせて立ち向かう姿に、思わず応援したくなります。ユーモラスなキャラクターと、きのこのユニークな世界が魅力たっぷり。読み聞かせにもおすすめです。楽しくてちょっぴりドキドキする絵本です。



本の購入リクエスト・リサイクルについて

図書室では、利用者から本の購入リクエストを受け付けております。

寄贈本に関しては、広野町ゆかりの図書を収集します。一般図書は可能な限り新刊本を収集します。

詳しくはスタッフまでお尋ねください。

一般 秋の本棚展示

10月の
企画展示

児童図書 ハロウィン特集



※システム故障につきランキング無し

問 広野町図書室 ☎0240-27-3211 e-mail : hirono-library@abelia.ocn.ne.jp

広野文芸欄

季節を詠む 時流を讀む
広野町長月句会 猪狩行々子選



アルバムの整理引きずる夜なべかな
遠藤 恵美子

秋雨をさらりと通す稲の花
暁 月

秋風や独り暮しにまだ慣れず
咲き終へて魂抜ける月下美人
令 子

稲穂波笑顔の父の誇らかに
白鼻心から免れ林檎紅くなる
郁 子

稲穂揺れ風の道筋教えてる
落ちてすぐ足元へ来る櫟の実
浅川 幸子

秋風を髪にふんわり梳き入れる
推敲の一字に夜更け白露かな
塩 史子

しばらくは追いかけてみる鱗雲
赤ん坊を抱くように葡萄収穫す
遠藤 健太郎

夜長の灯もうお休みと鳩時計
造物主は如何な妖精彼岸花

会員募集のお知らせ

広野町俳句会では、会員を募集しています。俳句に興味のある方大歓迎です。俳句を通してみなさんと交流してみませんか。詳しくは、下の連絡先までお問い合わせください。

問 広野町俳句会 ☎090-7063-1676